

中等科・高等科

体操会

2023 体操会担当 竿代 誠二

2023 年度は男女別学最後の年の体操会となり、来年度以降は今まで行ってきた体操会とは大きく変わることが予想される。生徒たちは男女別学最後の体操会ということを中心に、それぞれが発表を行った。男女共学化後の体操会は大きく変わるように感じるイベントではあるが、「身体を使って自由に表現する」という自由学園がずっと大切にしてきた部分は失われることはないだろうと思わせられる体操会だった。

本論では、2023 年度に行われた体操会について述べる。

今年度の体操会概要

昨年度の体操会は、生活団から最高学部までの全校が一堂に介して行う体操発表の場ではなく、午前中に生活団・初等部の演目を、午後に女子部・男子部・最高学部の演目を行い、来場される保護者の方は、午前午後で入れ替わることにしたため、「体操発表の日」と名前を変更して実施された。コロナ禍の影響をまだ受けた状態の発表の日だったといえる。今年度は昨年度の午前午後のプログラムの在り方を踏襲しつつ、午前の部の中にも「男子部中等科体操」「メイポールダンス」「世界体操祭演技」を入れ込むことで、生活団から最高学部までのつながりを意識できるように工夫をした。

新しい行進の形

行進は毎年新しい工夫がされている。近年、生活団から最高学部までの全員が揃って練習する機会を設けるのが難しく、以前のような揃った行進を実施するのが困難になっていた。そこで、今回は例年同様のプラスノビンドの演奏をしつつも、行進自体はオリンピックの開会式のように自由に歩く形を採用した。部ごとに別れはしつつも、その中で観客に手を振りながら行進する姿は、自由度の高い中にも一体感が感じられた。また、歩く距離が長いと困難な生活団の子どもたちは行進の距離を短くするなど、行進の係が工夫を凝らして全体で満足のできる形で実施することができた。

体操会の実際

当日は晴天の中本番を迎えることができた。午前の部には中等科の生徒の演技や最高学部のレベルの高い演技が

組み込まれたことで、生活団や初等部の子どもたちともより大きなつながりを感じられた。午後の部の最後には、女子部、男子部、最高学部の全員が大芝生に集まり、フィナーレの演技を披露した。各部の体操を入れつつも、最後には全体で行われる演技は圧巻であった。今年度のような部の分け方は今回で最後にはなるが、自由学園に属する子どもたち全員が一体となる形は今後に残っていくと感される終わり方だった。

今後の見通し

2023 年度体操会の終わりには生徒たちにアンケートをとり、今後の体操会についてどう考えるかということ进行调查した。結果としては、今までの男女別のやり方を支持する声がありつつも、共学化することにより、演技も男女一緒にやるべきという声の両方が見られた。学校としては「共生共学」を掲げていることから、「女子」「男子」の括りで表現をするのではなく、新しい形の表現方法が求められていると感じている。今まで女子部体操で行っていた「しなやかな表現」や男子部体操で行っていた「力強い表現」というのは、必ずしも性差によるものではないと考えられる。今まで自由学園が取り組んできた動きの基盤は残しつつも、表現や選択の仕方に工夫をして来年度を迎えられればと思う。